



日付	名前
月 日	

**問題**

次の「文章(細い字)」と「古文(太い字)」を、まず声に出して読みましょう。古文は、読みがなを見ながら読みましょう。その後、問題に答えましょう。

このことがあってからも、おきなはやはり竹を取って、その日その日を送っていました。きみようなことには、多くの竹を切るうちに節と節との間に、黄金が入っている竹を見つけることがたびたびありました。それでおきなの家は次第にゆう福になりました。ところで、竹の中から出た子は、育て方が良かったと見えて、ずんずん大きくなって、三月ばかりたつうちに一人前の人になりました。そこで少女にふさわしいかみざりや衣しよをさせましたが、大事の子ですから、家のおくにかこって外へは少しも出さずに、いよいよ心を入れて養いました。大きくなるにしたがって少女の顔かたちはますますうるわしくなり、とてもこの世界にないくらいなばかりか、家の中がすみからすみまで光りかがやきました。

(和田萬吉作「竹取物語」より)

① 竹取のおきな、竹を取るに、この子を見つけて後に、竹取るに、節をへだてて、よことに、黄金ある竹を見つくること重なりぬ。かくておきなやうやう豊かになりゆく。この児養ふほどに、すすくと大きくなります。三月ばかりになるほどに、よきほどなる人になりぬれば、髪上げなどさうして、髪上げさせ、裳着す。帳の内よりも出ださず、いつき養ふ。この児のかたちのけうらなること世になく、屋の内は暗き所なく光満ちたり。

- 1 | ①にあたる「文章(細い字)」に―線を引きましょう。
- 2 | 「黄金」はどこで見つかりましたか。  
ア 竹の根っこ      **イ** 竹の節と節の間      ウ 竹の先の方
- 3 | 「児」はどのくらいで一人前の人になりましたか。  
ア 十年くらい      イ 半年くらい      **ウ** 三か月くらい
- 4 | ②にあたる「文章(細い字)」に―線を引きましょう。